

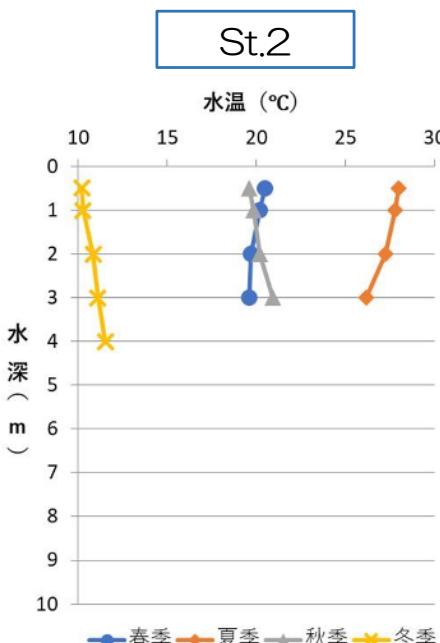
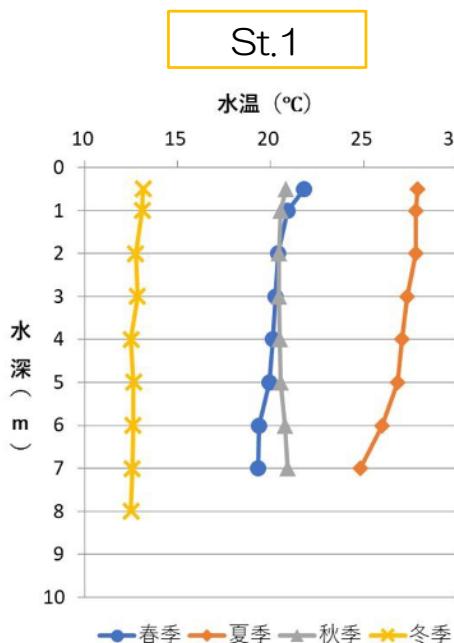
川崎港の水質

川崎港で行った水質調査のうち、水温と溶存酸素（DO）の結果の一部を紹介します。調査は東扇島西公園（St.1）と多摩川河口（St.2）の2地点で行いました。

①水温

夏の調査では海面で水温が高く、海底に近づくにつれて低くなっていく様子がみられました。

春、秋、冬の調査では海面から海底まで、大きな変化はみられませんでした。

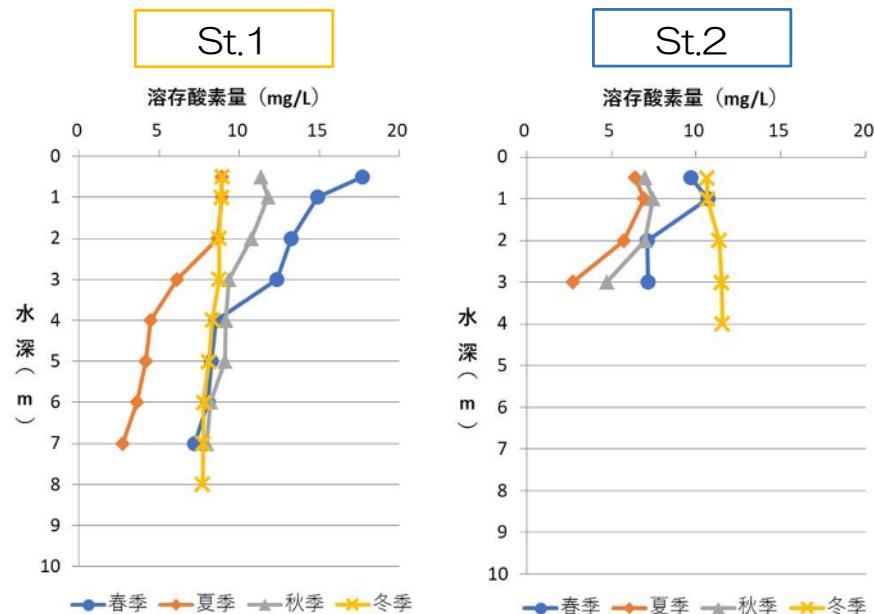


②溶存酸素 (DO)

溶存酸素とは水に溶けている酸素のことです。溶存酸素は海の生きものが生きていくために必要不可欠なもので、一般的に3.0mg/L以下になると、多くの生きものが生活できなくなってしまうとされています。

春、夏、秋の調査では、溶存酸素が海面近くで高く、海底に近づくにつれて低くなっていく様子がみられ、夏の調査では海底近くで溶存酸素が3.0mg/Lを下回りました。

冬の調査では、溶存酸素は海面から海底まで大きな変化は見られませんでした。



東京湾では溶存酸素が低い水の塊
「貧酸素水塊」が夏場に
よく発生しているんだ。
貧酸素水塊についてトピックス③
(29ページ)で詳しく説明するよ！

